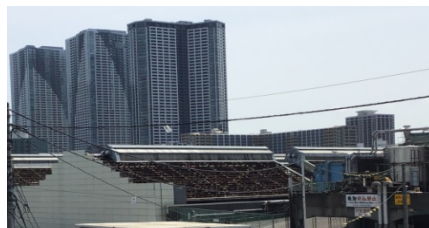


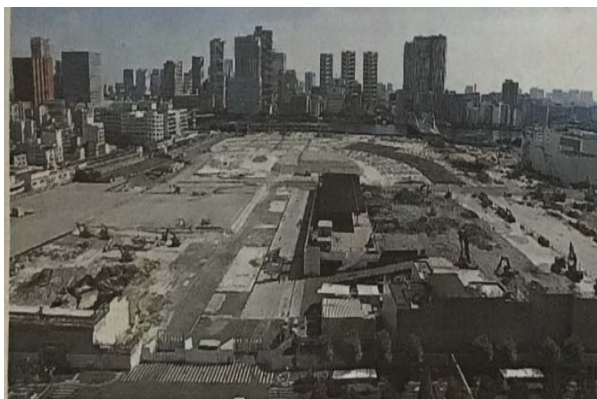
築地閉場から 1 年

写真は今年 4 月に東京に調査に行ったとき撮った解体中の築地市場。平日午前なのに、場外市場は観光客でごった返していた。狭い路地は前に進むのも困難だった。解体中の市場を上から眺めようと、「築地魚河岸」屋上広場に上がった。無残に解体されつつある市場の跡を見ると、なんだか無性に腹が立ってきた。



市場の向こう側に林立するタワーマンションに驚いた。築地から隅田川を超え、勝ちどき駅近くに建てられたものだ。このあと中央区役所で湾岸地区の開発についてヒアリングしたが、月島や晴海などでもタワーマンションなどの住宅開発が進められている。東京一極集中と大規模開発について、調査をもとに論文にまとめていった。

写真下は朝日新聞 10 月 3 日夕刊。「解体工事が進む旧築地市場=1 日」とある。4 月に行った時から、解体工事がかなり進んだものだ。旧市場の全貌を見ると、広大な敷地なのが見える。勝ちどきの巨大タワーマンションなどを見渡すこともできる。東京湾岸部の巨大開発は、さらに加速しつつある。



築地再開発について、日本経済新聞 10 月 6 日朝刊に関連記事が掲載されていたので、途中まで紹介したい。

築地市場が閉場し、6 日で 1 年となる。東京ドーム 5 個分(約 23 ㌔)に相当する都心の広大な跡地を巡って、東京都は国際会議や展示会を誘致できる大規模施設など再開発の素案を描き、周辺の交通インフラの整備も計画する。2020 年には一部で開発業者の募集が開始。巨大プロジェクトの完成は 40 年代を見込む。

更地になった築地市場の跡地は現在、20 年東京五輪・パラリンピックで使う大型駐車場の整備が進められている。選手や大会関係者の移動に使うバスや乗用車 2400 台分のスペースが確保され、洗車場や給油施設も設けられる予定だ。

大会後の跡地について東京都は「築地まちづくり方針」を今年 3 月に最終決定した。方針では敷地を 4 つのブロックに分けた。西側の浜離宮恩賜庭園に近いエリアは国際会議場やホテルなどを置く「おもてなしゾーン」、中央部のエリアは集客施設などの「交流促進ゾーン」、東側エリアはバスなどの交通ターミナルとなる「ゲートゾーン」として、隅田川沿いは船着き場やレストランを整備した「水辺の顔づくりゾーン」になる。

(2019 年 10 月 12 日)